

## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社ニチリョク

上場取引所 東

コード番号 7578 URL https://www.nichiryoku.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 杉本 卓士

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長

(氏名) 五嶋 美樹

TEL 03-6281-8470

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	1,506	1.4	172		138		290	
2023年3月期第2四半期	1,485	5.5	8		56		59	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	18.29	
2023年3月期第2四半期	4.01	

(注)2023年3月期第2四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。2024年3月期第2四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	8,294	4,866	58.7	303.78
2023年3月期	8,910	4,539	50.9	289.11

(参考)自己資本 2024年3月期第2四半期 4,866百万円 2023年3月期 4,539百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,900	21.0	360	62.2	260	88.5	270	128.7	17.77

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	16,030,005 株	2023年3月期	15,710,005 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	9,665 株	2023年3月期	9,665 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	15,886,624 株	2023年3月期2Q	14,829,133 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、資源価格の高騰や物価高等の下押し要因は依然存在するものの、訪日外国人の新規入国制限の見直しやマスクの着用推奨が緩和され、特にインバウンド消費の拡大等により先行きは明るい兆しを見せております。

当社が属するメモリアル市場は、高齢者が増加傾向にあるにもかかわらず、お墓事業においては、埋葬の選択肢の多様化に伴い低価格帯の樹木葬等の需要が増加している中、旧来の一般墓の購入層は年々減少傾向にあります。

一方、首都圏の居住者が所有する故郷のお墓を引っ越しする需要は緩やかに増加しております。

こうした流れに対応すべく、消費者ニーズに寄り添った様々なお墓の形態を兼ね備えた霊園を提供するため、既存霊園の改造、増設を行うと同時に旧来の一般墓の販売強化を図ると共に、供養の全てを網羅した納骨堂(堂内陵墓)の販売拡大に取り組んでおります。

葬祭事業においては、超高齢化を背景に葬儀の簡素化が進むと共に、インターネット媒体を中心とした同業者間の価格競争により施行単価が伸び悩む傾向はあるものの、コロナ禍により自粛傾向にあった通夜式を執り行うご葬家が戻り始めました。

このような環境下、当社は、「後悔のない葬儀式」を提供すべく魅力的なプランを開発し低価格競争からの脱却を図り、売上高並びに受注件数の増大に努めております。

全社的マーケティング戦略としては、会報誌を春夏秋冬に配布することに加え、コロナ禍により少人数に限定していた終活セミナーやイベントを本格的に開催し受注に繋げる施策を継続して行うと共に、さくら・あおい倶楽部会員に対して墓石、納骨堂、葬儀及び仏壇等を会員価格で提供するだけでなく、終活や葬儀後の諸手続きを総合的にお手伝いする「総合シニアライフサポート企業」として発展することを目指しております。

また、売上原価や販売費及び一般管理費を抜本的に見直し、利益を確保できる体制の構築に努めており、当第2四半期累計期間の営業利益については、2014年3月期第2四半期累計期間(10年前)以来の高い水準となっております。

それに加え、経営資源の有効活用及び財務体質の強化を図るため、当社が所有していた固定資産を2023年6月14日に譲渡し、固定資産売却益1億3千4百万円を特別利益として計上しました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高15億6百万円(前年同四半期比1.4%増)、営業利益1億7千2百万円(前年同四半期は営業損失8百万円)、経常利益1億3千8百万円(前年同四半期は経常損失5千6百万円)、四半期純利益2億9千万円(前年同四半期は四半期純損失5千9百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ①お墓事業

##### a. 屋外墓地

屋外墓地(一般墓、樹木葬を含む)につきましては、高齢者の増加により成約件数は堅調に増加しているものの、埋葬に対する価値観の変化や選択肢の多様化に伴い、高価格となる旧来の一般墓の購入層は年々減少傾向にあります。

それに対し、樹木葬や共有墓等の需要は急増しており、当社は、募集販売を受託している既存霊園の改造や増設、業務提携先である株式会社アンカレッジが得意とする花と眠る寺院境内型樹木葬を共同開発する等、販売力強化に努めております。

売上高は、6億9百万円(前年同四半期比1.7%増)となりました。

##### b. 納骨堂

納骨堂につきましては、現在、第六号「赤坂一ツ木陵苑(東京都港区)」並びに第七号「大須陵苑(名古屋市中区)」の募集代行を行っております。

消費者が受け入れやすい価格且つ価値観を超える重厚な近代的設備を備えたお墓の形態であり、主要な駅から徒歩圏内という利便性も兼ね備えております。

また、赤坂一ツ木陵苑においてデジタルサイネージ機能「家系樹」を実装しており、家系図、故人の情報を含むパネル式情報端末を作成しタッチパネルによる閲覧機能を兼ね備えた新たなサービスは、今後の納骨堂収益に寄与するものと確信をもって提供しております。

売上高は、8千7百万円(前年同四半期比32.2%減)となりました。

#### ②葬祭事業

葬祭事業につきましては、死亡者数が年々増加傾向にある中、ご葬家に対して後悔のない葬儀式を提供することを念頭に、魅力的なプランを開発し低価格競争からの脱却を図り、売上高並びに受注件数の増大に努めており、収益は順調に伸長しております。

それに加え、新たな取り組みとして、仏教の儀式に則った丁寧な葬儀を求めらるご葬家の要望に応えるため、歴史ある寺院の本堂にて寺院の宗派の法式によって執り行える「本堂葬儀」を開発し、荘厳且つ格調高い葬儀を提供しております。

売上高は、8億8百万円(前年同四半期比6.9%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債、純資産の状況

## (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ、3億2千4百万円減少し、9億7千9百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金2億4千5百万円、売掛金3千1百万円、完成工事未収入金1千9百万円及び未成工事支出金1千7百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ、2億8千2百万円減少し、73億9百万円となりました。その主な要因は、差入保証金2億2千3百万円の増加、土地4億9千6百万円の減少等によるものであります。

この結果、総資産は、82億9千4百万円となり、前事業年度末に比べ6億1千5百万円減少いたしました。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ、3億3千2百万円減少し、25億7千7百万円となりました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金1億4千6百万円、預り金5千2百万円、未成工事受入金4千1百万円、買掛金2千3百万円、未払法人税等2千1百万円、賞与引当金1千6百万円、未払消費税等1千3百万円及び短期借入金1千1百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ、6億1千万円減少し、8億5千万円となりました。その主な要因は、長期借入金5億8千3百万円の減少等によるものであります。

この結果、負債合計は、34億2千8百万円となり、前事業年度末に比べ9億4千2百万円減少いたしました。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ、3億2千7百万円増加し、48億6千6百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金2億9千万円の増加等によるものであります。

この結果、自己資本比率は58.7%（前事業年度末は50.9%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ2億4千5百万円減少し、4億2千4百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、7千6百万円（前年同四半期は5千3百万円の使用）となりました。これは主に、営業収支による獲得1億2千6百万円、利息の支払2千9百万円及び法人税等の支払1千9百万円等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、3億8千4百万円（前年同四半期比12.0%増）となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入6億3千万円、差入保証金の純増による支出2億4千万円等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、7億6百万円（前年同四半期比15.2%増）となりました。これは主に、長期借入金の純減による支出7億2千9百万円等によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点、2023年5月12日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	670,051	424,662
完成工事未収入金	40,565	21,211
売掛金	194,847	163,177
永代使用权	157,919	155,417
未成工事支出金	134,348	117,145
原材料及び貯蔵品	54,316	55,433
その他	51,938	42,893
貸倒引当金	△46	△40
流動資産合計	1,303,940	979,901
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	488,013	455,306
土地	1,822,050	1,325,911
その他(純額)	4,557	3,770
有形固定資産合計	2,314,621	1,784,988
無形固定資産	36,026	33,812
投資その他の資産		
長期貸付金	47,427	42,527
差入保証金	4,544,125	4,767,406
長期末収入金	351,771	347,301
その他	335,258	369,524
貸倒引当金	△37,046	△35,795
投資その他の資産合計	5,241,536	5,490,965
固定資産合計	7,592,184	7,309,766
繰延資産	14,574	5,250
資産合計	8,910,699	8,294,917
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	98,610	75,345
短期借入金	622,266	610,678
1年内返済予定の長期借入金	1,572,912	1,426,864
未払法人税等	33,848	12,764
賞与引当金	86,283	69,974
その他	495,994	381,625
流動負債合計	2,909,916	2,577,253
固定負債		
長期借入金	1,098,176	514,499
退職給付引当金	211,019	190,740
役員退職慰労引当金	41,601	48,217
その他	110,312	97,530
固定負債合計	1,461,110	850,988
負債合計	4,371,027	3,428,242

(単位:千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,847,556	1,865,754
資本剰余金	1,498,796	1,516,994
利益剰余金	1,197,095	1,487,669
自己株式	△2,790	△2,790
株主資本合計	4,540,657	4,867,628
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△1,542	△952
評価・換算差額等合計	△1,542	△952
新株予約権	556	—
純資産合計	4,539,671	4,866,675
負債純資産合計	8,910,699	8,294,917

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	1,485,947	1,506,239
売上原価	493,244	448,254
売上総利益	992,702	1,057,985
販売費及び一般管理費	1,001,567	885,506
営業利益又は営業損失(△)	△8,864	172,479
営業外収益		
受取利息	675	567
受取配当金	183	183
受取賃貸料	2,408	2,408
受取手数料	1,854	234
協賛金収入	4,686	—
受取販売奨励金	200	1,272
未払配当金除斥益	—	1,245
その他	2,465	2,641
営業外収益合計	12,474	8,552
営業外費用		
支払利息	34,493	26,506
新株発行費	9,302	8,574
その他	16,550	7,291
営業外費用合計	60,345	42,371
経常利益又は経常損失(△)	△56,736	138,660
特別利益		
固定資産売却益	—	134,488
特別利益合計	—	134,488
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△56,736	273,148
法人税、住民税及び事業税	4,627	4,763
法人税等調整額	△1,873	△22,188
法人税等合計	2,753	△17,425
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△59,490	290,574



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
営業収入	1,502,345	1,473,173
原材料又は商品の仕入れによる支出	△462,939	△425,401
人件費の支出	△492,549	△495,915
その他の営業支出	△532,505	△425,836
小計	14,351	126,019
利息及び配当金の受取額	1,236	791
利息の支払額	△36,271	△29,893
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△32,980	△19,944
営業活動によるキャッシュ・フロー	△53,663	76,973
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	420,227	—
有形固定資産の取得による支出	△616	—
有形固定資産の売却による収入	—	630,127
貸付金の回収による収入	9,400	4,900
霊園開発協力金の支出	△21,272	—
霊園開発協力金の回収	6,487	3,104
差入保証金の差入による支出	△196,681	△309,788
差入保証金の回収による収入	81,998	69,591
その他	43,551	△13,693
投資活動によるキャッシュ・フロー	343,094	384,241
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	12,174	504,250
短期借入金の返済による支出	△42,523	△515,837
長期借入金の返済による支出	△645,602	△729,725
株式の発行による収入	65,184	35,840
配当金の支払額	△1,548	—
その他	△1,023	△1,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	△613,339	△706,604
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△323,908	△245,389
現金及び現金同等物の期首残高	712,999	670,051
現金及び現金同等物の四半期末残高	389,091	424,662

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、2021年3月期からの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う、政府による緊急事態宣言の発出、外出自粛要請や埋葬の選択肢の多様化等の影響を受け、お墓事業においては来園者(見学者)数の急減、葬祭事業においては会葬者が激減した結果、業績が急速に悪化しました。

さらに、宗教法人が納骨堂を開発する際の資金の一部を当社が債務保証しており、宗教法人との契約に基づく納骨堂の販売が計画通りに進捗しなかったため、債務保証の履行により、当社の資金繰りを圧迫しました。

そのため当社は、借入金の返済について取引金融機関と協議し、当面の返済について猶予を受けることで合意しました。

しかしながら、依然として手元流動性資金の確保に支障が生じる可能性があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在するものの、このような状況を速やかに解消するため、より効率的且つ効果的な広告媒体の選定を含む営業施策を抜本的に見直すことにより、納骨堂の拡販を図り当該リスクに対処して参ります。

資金面につきましては、手元流動性の確保に努めるべく全ての取引金融機関と協議を行い、今後も継続的な支援が得られるよう交渉して参ります。

これらに限らず諸施策を遂行することにより、当該状況を早期に解消し、経営基盤の強化及び安定に努めて参ります。

この結果、当社には継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。